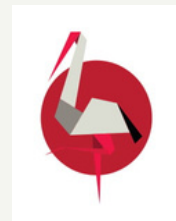


社会福祉法人 福田会 週次報告書

2022年9月13日 / Vol. 018



9月5日(月)～9月11日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援

車椅子補助装置開発メーカー様と打ち合わせ

冬服支援に向けクラクフ市と打ち合わせ



ご支援総額

2022年9月8日までの寄付総額 100,126,871 円

寄付金使用総額 1488292.26 zł (4,316万円)

9/5(月)～9/11(日)の期間中の寄附金使用額

35025.49 zł(約102万円)

ウクライナ避難民への冬服支援のための打ち合わせを実施。

写真はクラクフ市福祉課スタッフと福田会ポーランド支部代表・吉田。

活動内容



支援所への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所へ週2回の支援物資の買い出し支援を実施。

普段支援物資の買い出しを行っている大手スーパーチェーンでは、150zł以上の会計で25zł割引のクーポン発行キャンペーンをしており、この日のレジ担当者がウクライナ人避難民であったこともあり、150zł毎に会計をし、クーポンを発行してくれた。

「皆さんの支援に対する私からのお礼です」と話してくれた。



レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約740食を提供。

レストランクーポン利用者の中には、高齢や持病のため自分で調理が出来ない方もいれば、こちらで仕事を見つけたが賃金が低く家では最低限のものしか食べられない、という方もおり、依然レストランプロジェクトの需要の高さが伺える。



食材支援（毎週金曜日）

25家族に1週間分の昼食用食材を提供。

一人あたり50złの予算を設け、合計で3349.52 zł（約97,200円）分の食材を購入。

食材支援の参加者を管理しているウクライナ人スタッフが体調不良の為、スタッフの母親であり自身も食材支援の参加者である女性が、参加者とのコミュニケーションや買い出しの手伝いをしてくれた。

この日が家族の誕生日で、小さなケーキを購入している家族の姿もあった。



活動内容



車椅子補助装置開発メーカー様と打ち合わせ

車椅子補助装置を開発されているJINRIKI様より、車椅子用のけん引装置を10台、ご寄付頂いた。

この装置を車椅子に取り付ける事によってお年寄りや子どもでも簡単に車椅子を運ぶ事ができ、悪路での移動や物資の運搬にも役立つという。

現地ボランティア（以前より福田会と連携して活動を行っている、プラットフォーム4番避難所のスタッフ）と協力し、必要な場所へ提供予定。



冬服支援に向けクラクフ市と打ち合わせ

新たな支援として、冬用衣類を持たずに避難して来ている避難民のため、冬服と靴の購入のためのクーポン配布を決定。



クラクフ市と連携し、支援が必要な2000名を対象にクーポンを配布予定。

クラクフ市福祉課にリストを作成してもらい、配布対象者を選定する。

写真はクラクフ市福祉課の皆様と福田会スタッフ。





現地の動向

クラクフ市内中心からトラムで15分ほどの場所にある、閉鎖されたショッピングモール・ガレリアプラザは、2月の侵攻以降、臨時の避難所として運営されていた。（写真右：7月訪問時の様子）

450人以上を収容出来るスペースでは、無料の食事・衣服の提供が受けられ、これまでに2500人以上が利用をしていた。

しかし、建物の改修工事が決定し、7月末で利用者は市内の3か所の施設へと分けられ、移送されることになった。

各移送先においても、8月末で退去を迫られたり、9月末までの限定滞在であったりと、避難民は安定とは程遠い生活を送っている。

（ガレリアプラザを利用していた避難民は、クラクフ市福祉課によってリスト管理されているため、このような人々に冬服支援のクーポンが贈呈される。）

現在、クラクフ市のあるマウウォポルスカ県では28,000以上の避難所があり、そのうち17,000箇所が既に受け入れ数の定員に達している。

避難所のほとんどはクラクフ市外にあるが、教育・福祉面のサポート体制が整っていないため、子を持つ家庭や特別な支援を必要とする人の多くが、市内の避難先を転々とせざるを得ない状況に置かれている。

